

## 「中央市日本語教室」に参加して

岩波玲子（峡中地区）

皆様今日は。今回、中央市の日本語教室についてお話させていただきます。

中央市の国際交流協会日本語教室を始めてから（平成 19 年）、8 年目に入りました。

「山梨日本語ボランティアの会」の望月先生や長阪先生のご協力により、ここまで何とか続けて来られました。本当に一から手を取ってご指導頂きました。日本語の指導については右も左も解らない状態でしたので苦労しました。話す事も書く事も人並みに出来ない状態でしたので、先ずそこから始めなくては成りませんでした。戸惑う事ばかりでした。

教室では色々なことがありました。漢字の勉強を 8 課（漢字 300）まで終わった方に、「お料理教室を探して欲しい」と依頼されました。また健康診査の申込用紙を持って来て記入方法を教えて欲しいとか、アパートの継続更新の書類の書き方を教えて欲しいとか、色々関わる事は多いです。車を買う為に、ローンを組むための書類の書き方を教えて欲しいとか、病院にも車に乗せて連れて行ってあげたり、何かと細かい事にも関わって、日本語の指導だけでなく、力になって上げて居るんだな、と言う事を実感しました。

2010 年 11 月、山梨県立大学の「コンソーシアム山梨」で、今までの日本語教室の取り組みを発表させて戴きました。以下に報告の一部を掲載しました。

### 「中央市国際交流協会 日本語教室」の 取り組み事例から

中央市国際交流協会  
山崎かおり  
森脇アロマ  
岩波玲子

### 1. 中央市の概要と外国籍市民の数

- 中央市の位置  
山梨県のほぼ中央に位置する
  - 面積 31.8km<sup>2</sup>
  - 人口 H22年11月 31,000人  
うち外国籍市民1,880人(29カ国)  
平成18年2月合併時 2,100人
- 人口比では山梨県の中で最多住地域(人口比6%)  
うちブラジル出身者がもっとも多く、1,238人(66%)  
他、ペルー232人(12%)、中国158人(8%)、  
フィリピン88人(4.6%)、朝鮮・韓国38人(2%)など

### 2. 日本語教室について

#### 2.1 日本語教室開設

- H18年2月20日 中央市の誕生  
(田富町・玉穂町・豊富村の合併)
- H19年1月10日 中央市国際交流協会の設立時  
外国籍市民より日本語のコミュニケーション支援の必要性が出される。
- H19年2月18日 増穂町で日本語学習発表会を見学
- H19年9月19日 日本語教室開設最終原案のまとめ
- H19年10月21日 日本語教室 開講

### 2. 日本語教室について

#### 2.2 日本語教室開設当時の構想

- 対象者: 日本語を学びたい外国籍市民  
(市内在住・在勤を優先)
- クラス: 初級、中級(週2時間、30分程サロン)  
各クラス 20名程度
- 講師: 開設当初  
「山梨日本語ボランティアの会」講師
- スタッフ: 英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語  
のサポート・スタッフ  
・ 幼児を預かるスタッフ

## 2. 日本語教室について

### 2. 23日本語教室の概要

開催日時: 毎週日曜日 午前10時～12時

場所: 中央市田富総合会館

開講式: H19年10月21日(日)

第1期: H19.10～H20.3 3クラス(入門、初、中)  
山梨日本語ボランティアの会講師が担当、  
中央市ボランティアがサポート

現在は第7期

2クラス 中央市ボランティアが担当

1クラス 山梨日本語ボランティアの会講師が担当

## 3. 日本語ボランティアの研修

### 3.1 H19年度山梨県委託事業

#### 「日本語ボランティア養成講座」

期間: H19年10月～12月

受講時間: 15時間

講師: AJALT

内容: 日本語ボランティアの役割と日本語支援、  
発音と文字表記、文法の教え方、  
実際の教え方を模擬授業を通して学ぶ

## 3. 日本語ボランティアの研修

### 3. 2 H20年度文化庁「生活者としての外国人 のための日本語教育」委託事業

「ボランティアを対象とした実践的長期研修

期間: H19年10月～12月

受講時間: 72時間

講師: 山梨日本語ボランティアの会 望月敏子

実習30時間 講座30時間

## 5. 日本語教室の成果と課題

### 5. 1 感想

- ・ 授業をイメージしての教材作りでは、アイデア  
がたくさん浮かんで楽しかった
- ・ 教えたことが学習者に理解され、学習者が言葉を使  
って会話ができるときは嬉しかった
- ・ 学習者の母語を話すボランティアがいるので、  
助かった

## 5. 日本語教室の成果と課題

### 5. 1 気づき

- ・ 教えるを通して日本語の面白さや素晴らし  
さを感じたり、発見できた
- ・ 実際に授業をして指導や支援の難しさを感じた
- ・ 多様な学習者とニーズに対応するための教える  
側の柔軟性が求められることがわかった
- ・ 教材研究の大切さがわかった

## 5. 日本語教室の成果と課題

### 5. 2 学習者の声

- ・ 友達から日本語教室のことを聞いた。読み書きを覚える  
ために来た。色々なことを知りたいという気持ちがあり、  
来るたびに勉強になっているので毎週来ている。(入  
門 ブラジル)
- ・ ブラジルの店で日本語教室のチラシをみて、通い始めた。  
日本語を覚えたかった。日本人とコミュニケーションをと  
るために日本語教室に来ている。  
生徒がもう少し沢山いたらいい。  
通訳がいるといい。(初級 ブラジル 2名 ベルー1名)

## 5. 日本語教室の成果と課題

### 5. 3 課題

- ・ 財政: 教材作りをするための資金
- ・ 場所: 資料の保管・管理をする場所
- ・ クラス運営: クラスごとの自主運営は、独善的に  
なりやすい
  - ・ 教える技術の向上
- ・ 人材: 現在は市役所の職員の積極的な支援が  
ある。しかし他の業務もあり、多忙である。
  - ・ ボランティアスタッフの数を増やす

## 5. 日本語教室の成果と課題

### 5. 4 成果

- ・ 外国人と接する中で、外国人の考え方や文化を  
知ることができた
- ・ 日本語教室でパワーをもらって、元気になった。  
今後は・・・
- ・ 勉強だけではなく、日常のことを相談する場所
- ・ 気軽に来れる場所

平成 26 年 9 月 21 日は 14 期の終了式でした。一人一人に修了証書が手渡されました。「継続する事が大切」だと言う事を皆さんにお話しました。朝 8 時まで仕事をして、アパートに帰りシャワーを浴びてから出て来る方もいらっしゃるの、頭が下がります。



平成 26 年 9 月 21 日 第 14 期終了式

(終了証書を各々に中央市国際交流協会会長より手渡す)

26年10月19日から15期がスタートします。母国に帰られた方が多く、学習者も年々減っております。市の広報に掲載しても、それが読める日本語の能力がある方は勉強には来ません。オギノリバーシティやアピタに、ポルトガル語と英語と中国語などの募集のチラシを置いて頂き、募集の方法を変えてみました。イオンモールで前記のチラシ配りを3時間ほどしました。また外国人の良く利用するお店に行き（トライアルなど）、同様にチラシ配りをしました。やはり募集の運動をすればそれなりの効果はあるのだ、と実感致しました。



終了式後各々持ち寄りポットラックパーティ



子供も一緒にお勉強 初級クラス



始業式の前